大学院教育学研究科教科教育専攻・社会科教育専修，フィールド演習
担当教員：鴛原　進（社会科教育専修単独担当部分の担当）

新しい大学院必修科目「フィールド演習」の評価

社会科教育専修・鴛原　進

１．授業の概観

目的は，教育学部附属学校園，公立学校，その他教育関係諸機関等におけるフィールド活動を通して，高度な実践的指導力を獲得する。到達目標は，次のようである。

(1) 一斉指導による能力開発：実践的指導力のうち授業力を中核に据え，授業力の構成要素を理解するとともに，高度な実践力を有する現職教員の講義やフィールド観察を通じて，授業実践を多面的･多角的な視点から分析･考察する知見や能力を習得する。

(2) テーマ別活動による能力開発：授業をはじめとする実践課題に対応するための高度な指導力を，「実践的指導力養成プログラム(以下，実践プログラム)」の自主的･体験的学習を通して習得する。＜注＞実践プログラムとは，教育学部教員が主として講座単位で提供する体験型学習プログラムを指す。実践プログラムは，教育方法と教育内容との協働的アプローチによって構成される。受講生は，各実践プログラムについてのプレゼンを聞いた後，自らの課題意識に基づいてプログラムを選択する。受講生は，実践プログラム担当教員と共に課題を追究し，その成果を相互に報告し合う。

(3) 観察や研究の成果を科学的方法によって整理し，それらを効果的に表現することができる。

講義の概要は，前期は，優れた実践者らによる講義を通して授業力の構成要素について理解するとともに，その視点をもって学校での観察とグループ協議を行い,優れた授業のポイントをつかむ。後期は，各講座等より提案される実践プログラムを選択し，実践的指導力の育成を試みる。

授業のスケジュールは，次のようである。

【前期】
１．ガイダンス
２．実践的指導力総論 (1)
３．実践的指導力総論 (2)
４．授業力の視点(1)
５．授業力の視点(2)
６．授業力の視点(3)
７．実践研究(1) テーマ設定とグループ編制
８．実践研究(2) グループワーク
(授業観察事前討論 1)
９．実践研究(3) 学校現場での授業観察 1
10. 実践研究(4) グループワーク
(授業観察事後討論 1)
11. 実践研究(5) グループワーク
(授業観察事前討論 2)
12. 実践研究(6) 学校現場での授業観察 2
13. 実践研究(7) グループワーク
(授業観察事後討論 1)
14. 実践研究発表会(1)
15. 実践研究発表会(2)

【後期】
１．実践プログラムの計画プレゼン
２ー13. 実践プログラムの実施(1ー12)
14. 成果報告会(1)
15. 成果報告会(2)

評価は，レポート(50%)，実践研究発表会及び成果報告会の内容(50%)を総合的に評価する。

この報告書では，前期の７．～13.と後期の２．～13.の部分が対象となる。

２．授業評価法

前期の社会科教育専修担当部分には５人，後期はその５人に１人が加わり６人となった。少人数であるため，授業評価は，自由記述したものを提出してもらうことにした。授業評価の依頼は，2 月 3 日(木)に行い，2 月 19 日(土)までの回収とした。

依頼内容は次のようである。

フィールド演習（全体では火曜日・1 時限目ですが，社会科教育単独担当部分は火曜日・4 時限目）で，社会科教育単独担当部分（例えば，前期の小学校・中学校の授業観察と報告作成，後期の授業開発についての各自の報告・討議・全体への報告作成）について，自由記述で，授業に対する評価をして下さい。
※字数の制限はありません。
（短くても長くても可）
※出された方のチェックのため氏名記載欄をつくっておりますが，公開される時には，氏名は掲載されません。

※可能であれば，①フィールド演習（社会科教育単独担当部分）で良かった点，②フィールド演習（社会科教育単独担当部分）で改善すべき点などについて記載していただけると有り難いです。

３．授業評価結果

受講生６人全員に，自由記述にて授業の評価をしてもらった。次のようである。

① 社会科教育で良かった点

社会科教育専修の院生が協力して，授業観察，報告書作成が行えたことは，大変良い刺激となった。特に後期の教科ごとの演習は他教科の専修の現職教員の先生の視点も含めた教材開発ができたことは大変興味のもてる内容であった。後期の鴛原先生を中心とした社会科学としての教材解釈の追究については大いに現場で反映できる内容であったと考える。

② 社会科教育で改善すべき点

特にはなかったと思うが，外国籍の院生にとっては，内容自体が難しく，日本の教育と本国の教育内容に違いがあり，戸惑いもあったのではないかと思う。教科として外国人も含めたものとしての講座の組み方であったが，留学生を集めた講座編成にしてあげたほうが授業についての実践力をつけるためには有効であったのではないかとも考える。

フィールド演習全体を通じて

先にも述べたように，社会科教育としての取り組みは，担当の先生を中心として意義あるものであったと思うが，最初の授業のガイダンスで，フィールド演習は授業実践力をつけるために設けられたものと聞いていたが，授業実践力という観点では，今年の取り組み方ではかなり物足りないものだと，正直実感した。現職の教員からすれば，授業は経験をすればするだけ能力が増すものであると考えるため，教材解釈に重点を置いただけでは実践力はあがらない。学部ではなく，大学院生として教員を育てていこうと学生に対して行う授業であるならば，院生全員で互いの授業を評価し合うことをしなくてはならないと思う。さまざまな教科があり，担当する教員の問題がネックになっていると思われるが，これらの演習を積んだ大学院生が現場で教壇に立った時，本当に授業力を身に着けているかを考えた場合疑問が残る。そのことは，演習後の各教科の報告を聞いていても，相手に分かりやすく伝える要素，努力が足りないような気がする。頭の中でいくら考えても教壇にたつとそんな甘いものではない。授業実践力をみにつけさせるという趣旨が今一つ明確ではない。その割に生徒の負担は大きかったように思う。

（以上Ａさん）

①良かった点：

「文化」というものに焦点を当てた取り組みは今後の授業の参考になる。視点を変えることの重要性が確認できた。各人がそれぞれのものを持ち寄り，意見を交わすことで積み上がっていくという実感が持てた。鴛原先生始め，グループの雰囲気が大変良く，楽しく取り組めた。互いが互いで向上心があった。皆さんに大変感謝している。

②改善すべき点：

やはり一番は実際に授業をするというのが，本授業の趣旨であろうから，小学校などでの授業があればよかったかもしれない。本年度初めての取り組みということで，指導者，受講者ともに，全体像がつかみにくかったという点を指摘しておく。

（以上Ｂさん）

フィールド演習を一年間で勉強し，日本の教育についてある程度理解するようになりました。

まず前期：愛媛県の教育「鉄人」が来て授業していただいて，数学，物理などの科目の授業を聞いて，難しい内容を分かりやすく説明していただきました。とてもすばらしいと思います。そして，社会科グループは小学校の国語の授業を観察し，中学校の歴史授業を観察しに行きました。中国で大卒した私には，とても新鮮なことです。日本の授業の雰囲気，先生と生徒の交流，授業の作り方などいろいろ勉強になりました。日本に来る前に，日本の学校雰囲気はとてもまじめで，授業中で，先生は真面目に知識を教えて，生徒たちもあまり発言しないというイメージがありました。自分自身が現場へ聴きに行って，イメージとは違うと分かりました。

次後期：後期はグループを作って，授業をつくることになりました。鴛原先生は指導教員として，毎週の火曜日の四限目でフィールド演習をやりました。日本古代史の内容を用いて，皆さんは授業を作りました。留学生の私にはとても難しいです。意見なんて発言はぜんぜんできなかったです。個人的に平家物語をちょっと読みました。とても面

白いと思いました。中には中国の古代史のことわざを幾つが入っています。中国古代のことわざは日本古代史の物語にいれても使えるんだと思いました。やはり，知識というのは国に関係がないと感心しました。その上に，皆さんは日本古代史「浮世風呂」を用いて授業を作りました。わたしは内容的には分からなかったですが，授業つくりについてはちょっと勉強になりました。

感想文として，フィールド演習の専門用語なんてあまりできなくて，日本語もあまりきれいではないですが，本当の思いを書きました。申し訳ございません。

一年間，本当にありがとうございました。またよろしくお願いいたします。

（以上，Ｃさん）

①フィールド演習（社会科教育単独担当部分）で良かった点。

〇１つの教材に焦点を当てて，それを深めることを行ったこと。

前期の授業分析や後期の授業作成を通して，社会科では，「１つの教材を深める」ということが共通していたと思う。特に後期では，１つの教材の背景などを調べ，分析することで，自分自身の勉強にもなった。１つの教材から歴史を見る面白さを，この授業で改めて感じることができた。

②フィールド演習（社会科教育単独担当部分）で改善すべき点。

改善すべき点はありません。担当の鴛原先生を初め，現職の先生の現場の声というものは，本当に勉強になった。また，メンバーと話し合いながら，授業分析を行ったり，報告書を作る中で，様々な人の意見を聞くことができて，自分授業分析・作成についての視野が広がったと思う。

③最後に

フィールド演習の授業において，社会科教育単独の時間は，先ほど述べたように非常に充実していた。それに対して，その大枠であるフィールド演習の授業自体は，そもそも実践力をつけるための授業であったと思うが，今回の授業内容でそのことが備わったかと言われると，疑問である。教育学には様々な理論が存在する。そのことを学習するのも確かに必要だが，それだけでは現場で働く教師自身が「学校知」に止まってしまうのではないだろうか。次回からは，そのことを打開し，本当の意味での実践力をつけるためのフィールド演習の授業であってほしいと考える。

（以上，Ｄさん）

この一年間で，フィールド演習を勉強しました。先生にいろいろお世話になりました。ありがとうございます。

前学期は，先生といっしょに日本の小学校にいきました，日本の教育方式は良く勉強しました，レベルが非常に高いと思いました。そして日本と中国の学校教育の体制などの区別が一番深い印象を残しました。これを通じて，日本の教育制度，体制と発展の流れなどをわかりました。

後学期は，日本の「浮世風呂」「万葉集」「日本永代蔵」を授業化するための内容及び方法については勉強しました。この授業を通じて，特に教師指導案の作る方法を詳しく紹介してくれました。

先生の授業する形が，特別だと思います。良く“なぜ？”といいます。時々，先生の質問に答えられませんでしたが，先生の何回の問い詰めうちに，そのわからない問題を重視し始めて，考えて，調べますから，良く覚えます。先生と社会問題を良く考えして，研究して本当に楽しかったです。

（以上，Ｅさん）

①フィールド演習で良かった点

フィールド演習の授業を一年間行って，他専修の授業がどういうものかを見ることができ，その中で社会科の授業に生かせる点を探すことができたのは良かった点だったと思います。

また，後期の授業作りでは，他教科を専攻としている人たちと授業作りを行ったことで，社会科と言う枠に縛られず，広い視点から教材研究をすることの大切さを学ぶことができました。

②フィールド演習で改善すべき点

半年という短い期間で，なおかつ授業を受ける生徒と何のコンタクトもないまま授業実践を行うというのは現実的に難しいと思います。

（以上，Ｆさん）

４．まとめ

この授業に対して，受講者６人は，全体的には肯定的な評価をしてくれている。そのなかでも，社会科教育単独担当部分については，有益なこと

が多かったと,(かなりのリップサービスをしてくれているとは思うが・・・) 評価してくれている。

他方，この授業の趣旨と実際については，改善すべき意見として多くの受講者が指摘している。特に，構想した授業案を実践に移すまでに至らなかった点については,次年度には改善を試みたい。昨年度までの,「社会科教育実践研究：であれば,1 年を通じて，社会科教育単独で担当し，樹 j ぎょうこうそうとその実践，そして評価と授業改善までを見据えたものができていた。それを他専攻,他専修と合同で進めることをしながら行っていかなければならない。計画を再考したいと思う。

また，初めての科目でもあるので，同一のシラバスあるいは趣旨を読んだとしても，その理解するところやイメージするところは受講者により異なっているのであろう。改善点も多岐にわたっている。それは，教育学研究科に入学してくる院生の多様化にも影響されると思う。教職大学院的なものを要求し入学する学生もいれば，教育学研究科にて研究できる一学問に向き合いたいと入学する学生もいよう。ストレートマスターもいれば,現職をもった学生もいよう。ストレートとくくっても,本学部からの進学者,他学部からの進学者,他大学からの進学者，外国からの進学者など，実は，多種多様なのである。

報告者は，社会科教育という多様性に満ちた教科やグローバル学習などを専門にしているからかもしれないが，多様性を肯定している。多様性を肯定しなければ，その組織は硬直化していくと考えている。本研究科でいえば定員問題として直ぐ顕在化してこよう。

多様性を保証し，あるいは求めながらの，この必修科目「フィールド演習」はいかにあるべきなのであろうか。報告者には荷が重いと感じられる。が,担当者して授業を実施し続けていかなければ,解決しないことである。